

調査箇所 | 県道34号線昭和入口周辺



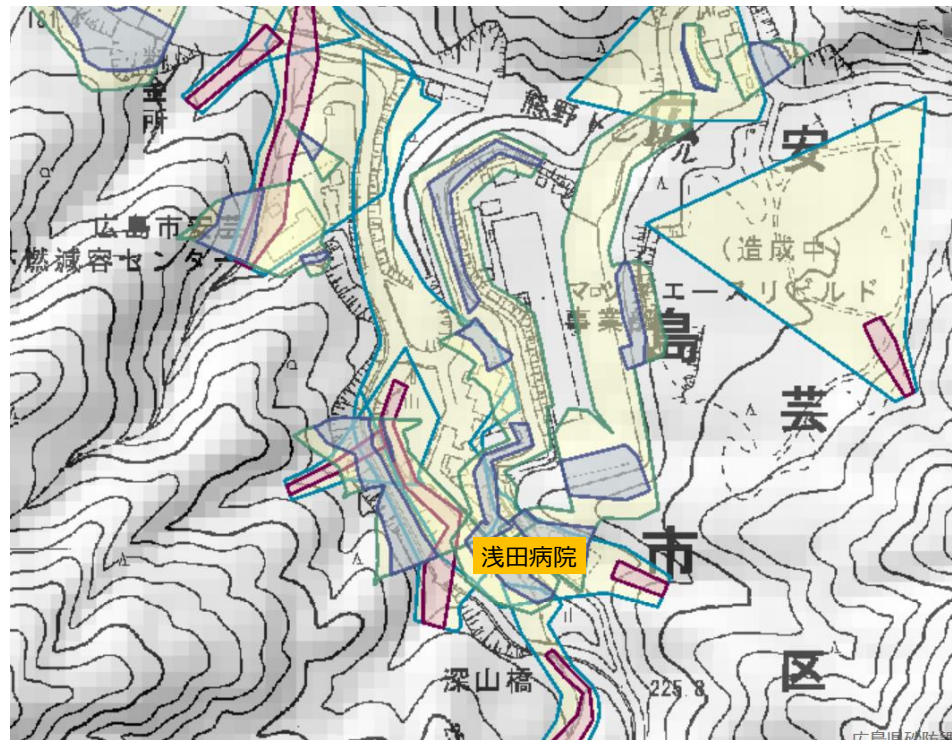
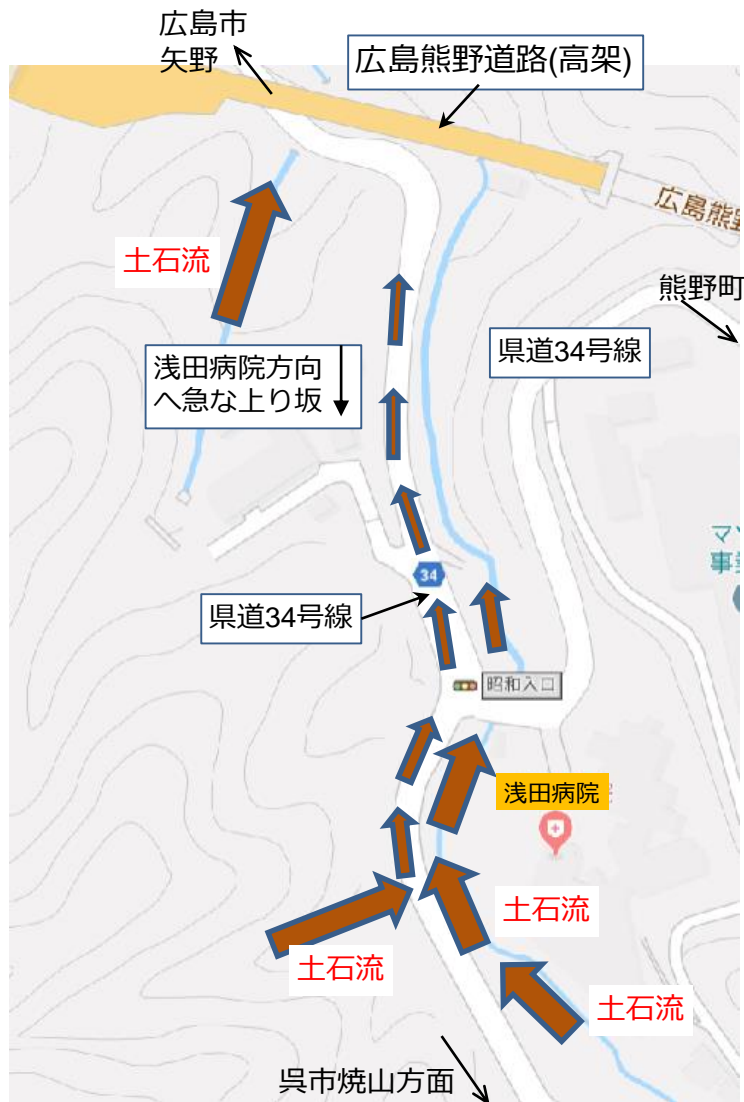
7月6日の午後7時頃、浅田病院近くの昭和入口交差点で信号待ちをしていた複数台の車に大量の土砂が流れ込んだ。さらに付近を走行していた車などおよそ10台も土砂崩れに巻き込まれた。7月14日に被災現場の調査を行った。

調査参加者：工学研究科 土田孝教授，橋本涼太助教，鈴木大夢 (M2)，岩井鉄平 (M2)，末岡知紘(M1)，鈴江俊介(B4)



被災現場と発生した土石流の方向

被災個所の道路状況と土砂災害危険度



被災個所は県道34号線浅田病院西の昭和入口交差点付近から矢野方面広島熊野道路高架下カーブまでの間の約300mである。

浅田病院の西の駐車場と交差点から焼山方面道路を80m進んだ箇所を出口とする2つの危険溪流があり、その両者から土石流が発生した。

2つの土石流が、交差点付近から高架下方面の下り坂を流下し、道路上の車両を襲った。

土石流によって襲われた状況の痕跡



カーブをした先にも流木や車両が流されていた。



ガード下まで流木等と一緒に押し流された車両



焼山方面道路に流出した土石流による車両の被害



折れたコンクリート製電柱に衝突して大破した車両



上流からの土石流と西から直行した土石流により一変した浅田病院駐車場



浅田病院方向の左側は川であり、吸い出されて陥没した路面。ガードレールは大きく川側に大きく変形。

浅田病院西側駐車場を通過した土石流



浅田病院西側土石流の上流方向



焼山方向道路に流出した土石流で被災した車両



交差点より高架下方向の状況



矢野方面カーブを下った先の状況



浅田病院付近の被災地調査のまとめ

- 本災害は、土石流により県道34号線で信号待ちしていた多数の車両が被災するという、これまでに例のない災害である。まだ行方不明者の捜索が続いているが、すでに数名の方の死亡が確認されている。
- 基礎調査によるレッドゾーン（土石流が住宅に構造的な損傷を与えると予測される範囲）が道路近傍と道路上にかかっている危険渓流が2本あり、その両者で土石流が発生した。その規模は基礎調査の予測をはるかに上回っていた。
- 県道34号線は矢野方面に急な下り坂となっているが、土石流によって発生した流木を含む土砂が道路を流下して多数の車両を巻き込んだ。
- 近年の中国地方の豪雨災害では2013年の島根豪雨で大量の土石流がトンネルに流入するなど、土石流による大規模な道路被害が発生していたが、道路上を流下して直接車両を襲った今回の災害は今後の防災対策上、重要な事例であると考えられる。

